

原 著

教員養成におけるミュージカル活動に関する一考察

虫明眞砂子(岡山大学教育学部)

2006年12月、音楽教育講座定期演奏会において、学生有志によるミュージカル「美女と野獣」ハイライトが上演された。公演終了後、ミュージカル参加者に対して行なったアンケート調査より、出演者たちが、楽しさ、充実感、創り上げる連帯感、仲間意識などの高揚感を感じた一方、公演継続に際する問題意識を持ったことがわかった。それは、第1に「取り組む時期」の遅さ、第2に「練習計画や役割分担」の不明確さによるもので、ミュージカルの仕上がりや衣装・小道具・大道具の制作が大幅に遅れたことは大きな反省点となった。今後、公演を「学生の主体的な活動」に持っていくための方策として、教員側と学生側の連携をいかに図るか、また、総合演習のような横断的なカリキュラム内容の充実等についての検討が急がれる。

キーワード：ミュージカル、制作、主体性、総合演習、カリキュラム

I. はじめに

ミュージカルは近年、日本でも頻繁に上演されるようになり、総合エンターテイメントとして観客動員数はこの5年間で240万人も増えている。ピア総研「エンターテイメント白書2006」によると、いまや、現代演劇・舞踊・古典芸能と合わせた「演劇」全体の過半数を占めている¹⁾。

2006年12月、音楽教育講座定期演奏会において、学生有志によるミュージカル「美女と野獣」が上演された。これまで音楽教育講座では、学生有志により、平成2年から現在まで9回のオペラハイライトを上演してきた²⁾。教員養成におけるオペラ活動についての教育的意義については、活動を通じて体験そのものが音楽表現や演奏技術向上に役立っているだけでなく、学校現場での音楽指導や総合学習の観点からも有意義であることはオペラ出演者に対するアンケート調査より明らかにしている³⁾。学生有志によるオペラ活動の第10回目にあたる今回の企画はミュージカル上演という初企画となった。また、小編成の楽器伴奏という形を組み入れたのも初めてである。ミュージカルは、ダンスと歌唱が重要であり、オペラに比べてより細かい演技も必要である。また、歌唱に関して、公演会場の関係から、通常マイクを使用するミュージカルでなく、マイクを通さない生の声で挑戦することとなった。さまざまな側面から学生や指導者にとって初めての試みとなった。

本稿では、第54回音楽教育講座定期演奏会で上演したミュージカル「美女と野獣」の取り組みを通して、舞台を支える裏方、演奏スタッフ、キャストの学生たちの意識がどのように変わったのか、観客の感想や意見も踏まえて、ミュージカル上演の課題点を検討、考察する。

II. 実践報告

1. 公演決定の経緯

音楽教育講座は、現在、毎年6月に学生主催の「ユニ・コンサート」、12月に学外研究発表会、2月に卒業研究発表会を開催している⁴⁾。これまでのオペラハイライト企画に関しては、在学している学生の意欲、歌唱力、キャラクターに適応した人材の有無、演技力等から、その年度内の企画の是非を決定し、演目の内容を吟味してきた。今回は、学生のキャラクターや歌唱力、また学生の希望から判断して、ミュージカル上演に踏み切ることとなった。

①企画の経緯

2006年5月ごろより、演目について検討に入った。検討の結果、7月にディズニーミュージカル「美女と野獣」をハイライト版で行うことが決定し、キャストイングと上演場面の検討、大道具の依頼(美術教育講座)、伴奏の楽器編成等の検討、キャストイングの決定、楽譜作成、練習計画の検討などを教員主体で行った。これらの検討には、約2ヶ月間の時間

を要し、9月半ばまでずれ込むことになった。大まかな計画は以下のとおりである。

- ・7月31日 掲示
- ・8月～9月中旬 キャスティング検討
- ・9月末 キャスト決定・楽譜渡し
- ・10月～ 合わせ開始
- ・11月～ 演出 立ち稽古
- ・12月～ 通し稽古

・12月13日 本番

②ミュージカルの企画内容

まず、ハイライト版製作にあたっては、鳴門教育大学内で2005年に試演されたものを参照した。個々の学生の歌唱力、音域、キャラクター、演技力に応じて、配役を決定し、曲目を検討した結果、13曲を選曲した。ハイライト場面については、表1に示す。

表1 ミュージカル「美女と野獣」ハイライト場面

	場面	登場人物		時間
	開演		ナレーション	
No1	プロローグ	楽器のみ	ナレーション	2'40"
	暗転		ナレーション	
No2	変わりものベル	ベル, 村娘3人, ガストン, ルフー		2'11"
	暗転		ナレーション 陰の声 (ビースト・ベル)	
No3	わが家	ベル		
No4	ミセス・ポットの助言	ポット夫人		
	暗転		ナレーション	
No5	ガストン	ルフー, ガストン, 村娘6人		4'18"
	暗転		ナレーション 陰の声 (ビースト・ベル)	
No6	絶望	ビースト		
No7	ビー・アワ・ゲスト	ルミエール, チップ 泡だて器, エッグタイマー, タンス夫人, ハベツト, ゴクスワーズ, ポット夫人		3'15"
	暗転		ナレーション・陰の声 (ビースト・ベル)	
No8	何かが変わった	ビースト ベル		3'12"
No9	美女と野獣	チップ (会話) ポット夫人 ビースト・ベル (ダンス)		3'20"
	暗転		ナレーション	
No10	人間に戻りたい	ルミエール, チップ 泡だて器, エッグタイマー, タンス夫人, ハベツト, ゴクスワーズ, ポット夫人		4'20"
	暗転		ナレーション	
No11	愛せぬならば	ビースト		2'
	暗転		ナレーション	
No12	暴徒の歌	ガストン, 村男		1'30"
	暗転		ナレーション	
No13	夢叶う～美女と野獣	セリフあり, ビースト, ベル 最後全員		4'23"
	暗転		ナレーション	
	カーテンコール	全員		3'30"

③練習経過

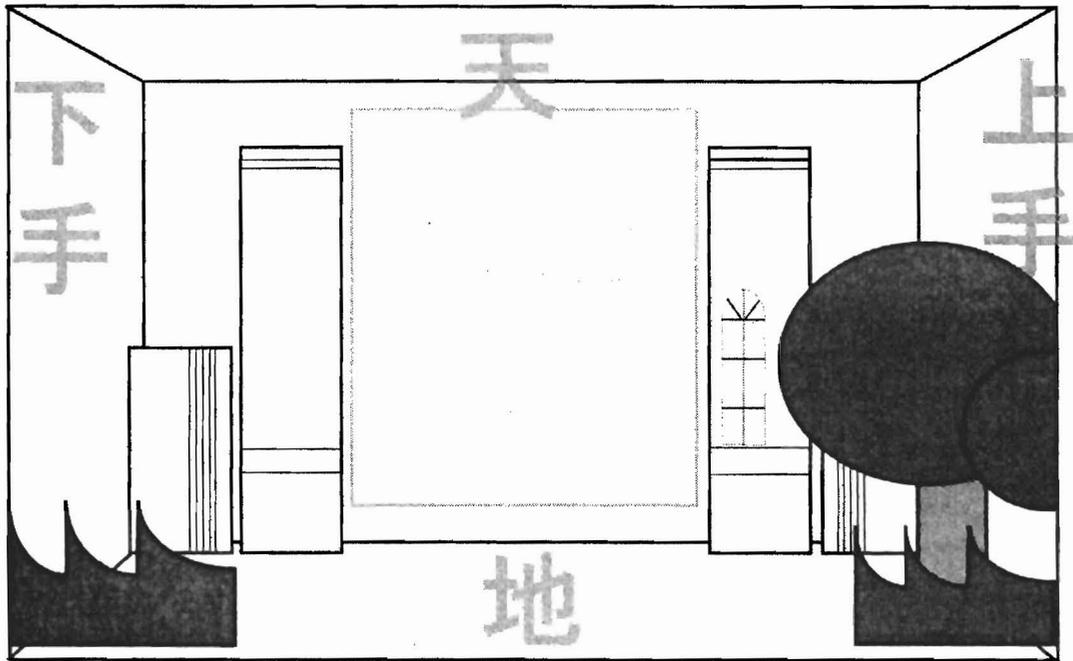
キャストリングは難航し、9月に最終決定となったため、楽譜配布は9月下旬となった。配布後は、各自パートを自主練習し、9月末からの練習日程に臨むよう指示うい行った。3年生の教育実習と重なり、メンバー全員揃った11月からが本格的な練習となり、大道具、小道具は本番1ヶ月半前からの制作となった。教員指導による練習日程は、以下のように行われた。11月は、学部3年生の本実習が入るため、10

月の1ヶ月間は、個人練習に切り替え、個人的に指導を行った。表に示したとおり、短期集中型のミュージカルとなった。指導者が不在の時期もあり、実際に通し稽古に入ったのは、公演の3日前であった。学生たちは、自主的に演技やダンスに取り組み、小道具等も制作した。

④舞台装置と照明

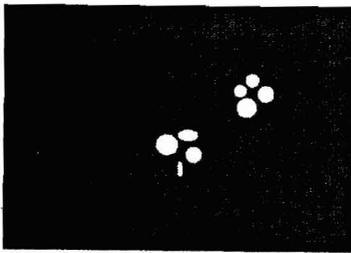
舞台装置と照明については、虫明と生涯教育3年生美術専攻の渡邊枝里で検討し、渡邊が装置と照明プランについて図を作製した(図1, 2)。

○舞台装置プラン：「美女と野獣」装置図（図1：渡邊枝里作成）



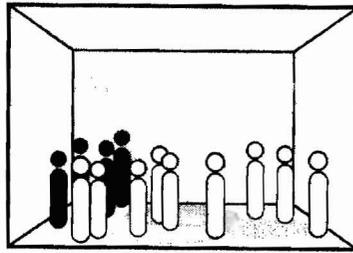
○舞台照明プラン（図2：渡邊枝里作成）

No.1



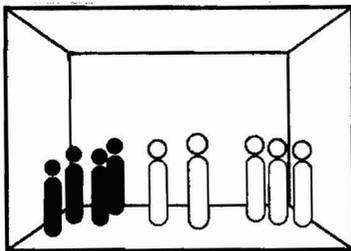
プロローグ
青暗い/花模様

No.4



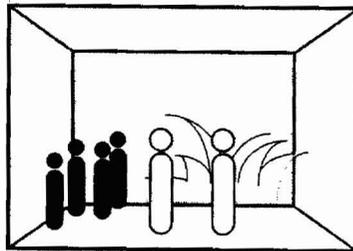
ビーアワゲスト
W
後半パーティーの
ように/スクリーン
7色
*役者9名

No.2



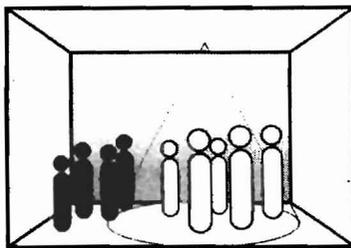
ベル
W
*ベル, 村娘数人, ガ
ストン

No.5



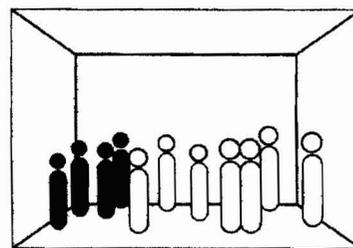
何かが変わった
しっとりした朝/木
立
*場所：庭
ビースト, ベル

No.3



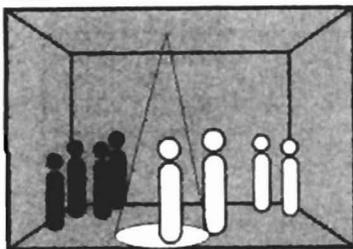
ガストン
場所：酒場/派手に
*ルファー, ガストン,
村娘

No.6



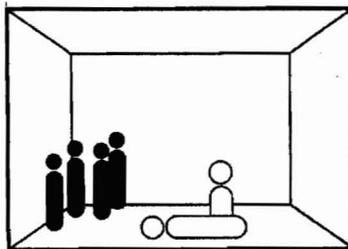
ヒューマンアゲイ
ン
やわらかく, 黄色み
*場所：城
計8人ほど

No.7



美女と野獣
スポット
*チッピー, ポット婦人, ビースト, ベルローグ

No.10



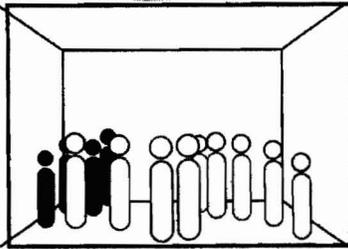
夢かなう
W+バラ
*ビースト, ベル
途中暗転あり

No.8



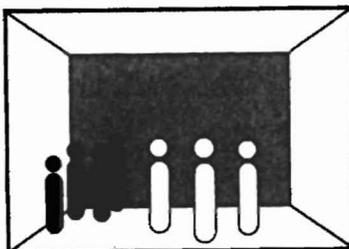
もう愛せない
しっとり暗い/スポット
*ビースト

No.11



カーテンコール
W

No.9



暴徒の歌
嵐
*ガストン, 村男2名

⑤大道具・小道具関係

大道具は、美術専攻3年生の渡邊に制作をお願いした(写真1)。セットは、城の部屋を想定して、窓とカーテンを製作し、照明や小道具などの工夫で、場面転換を行った。ミュージカル全

体を通して、美術科や岡山大大学祭の廃品を利用して、経費の支出がほとんどない状態での製作が可能となった。また、出演者学生は全員で、自分の小道具と衣装を工夫し、手作りの舞台となった。制作物の一部を紹介する。(写真1~11)

○大道具

写真1 城の窓



○小道具

写真2 バラ

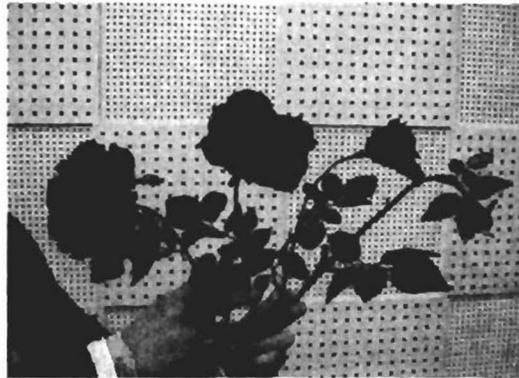


写真3 パン



写真7 花売りの荷車

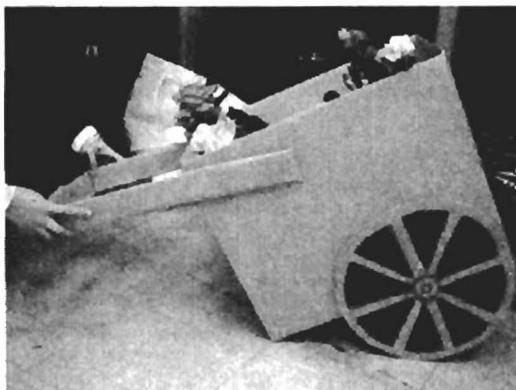


写真4 ほうき

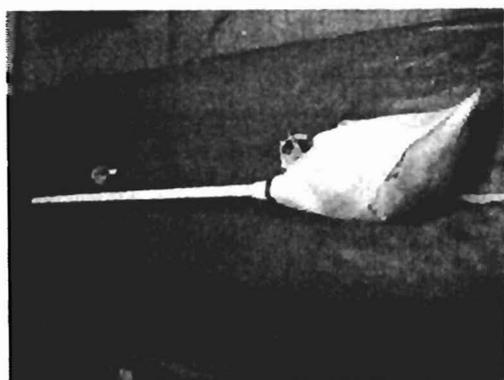


写真8 酒場の飲食



写真5 ステーキのふた



写真9 サーモンのステーキ

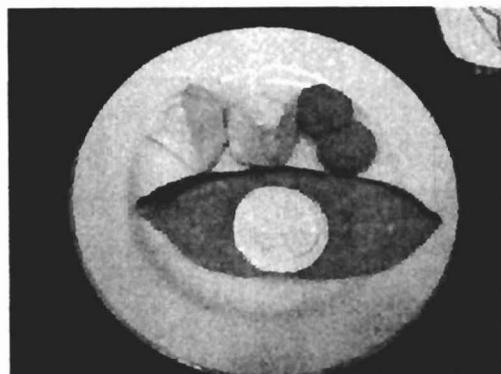


写真6 鳥の丸焼き



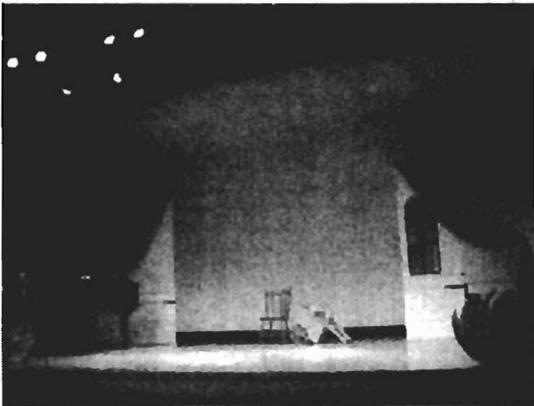
写真10 ビールジョッキ



練習風景（岡大音楽ホール於）



⑥ミュージカル公演本番の一部を紹介する。



Ⅲ. 出演者に対するアンケート調査と考察

定期演奏会終了後、出演者、音楽スタッフ、舞台スタッフに対してミュージカルのアンケート調査を実施した。

1. 調査対象者

出演者アンケート調査は、出演者、スタッフ計 23 名を対象に選択方式と記述方式で行った。内訳は次のようになっている。

性別：男 16 名、女 7 名 計 23 名

学年：1 年生 5 名 2 年生 10 名 3 年生 7 名 院生 1 名

住居：岡山市 13 名 倉敷市 3 名 県内他市町村 7 名

調査期間：平成 18 年 12 月 20 日～平成 19 年 1 月 10 日

2. 意識調査の概要

①これまでの舞台経験、満足度、次回出演への意欲について。

23 名の参加学生中、17 名は合唱、合奏、器楽のソロ、ミュージカル等 3～5 の複数の音楽活動を経験し、また出演者全員が 1 回以上の音楽舞台経験を持っていることがわかった。

表 2 回答者の舞台経験（複数回答）

種類	人数	%
合唱	14	24
吹奏楽	12	20
楽器ソロ	11	19
ミュージカル	7	12
声楽ソロ	4	7
ダンス	2	3
オペラ	1	2
演劇	1	2
その他	7	12

今回の出演者スタッフの中で、岡山県出身の学生は 8 割を占めている。岡山県は吹奏楽を中心とした部活動の比率が合唱部の活動に比べて非常に高いが、今回のように器楽活動の経験者がミュージカル活動

に興味関心を持って挑戦したことに注目したい。ミュージカルは、声楽、ダンス、演技の多要素から成立するため、ジャンルを超えて様々な経験をしてきた学生が自己の可能性を総合的に試したかったのではないかと考えられる。

表 3 舞台参加感想

種類	人数	%
楽しかった	19	83
まあ楽しかった	4	17
どちらともいえない	0	0
少し苦痛だった	0	0
苦痛だった	0	0

表 4 出演の満足度

種類	人数	%
満足している	2	9
まあ満足している	13	57
どちらともいえない	8	35
あまり満足していない	0	0
満足していない	0	0

表 5 次回出演希望

種類	人数	%
ぜひ出演したい	10	44
できれば出演したい	9	39
どちらともいえない	4	17
あまり出演したくない	0	0
出演したくない	0	0

表 3, 4, 5 より、出演者の大半が舞台上で表現すること、また舞台を創り上げることに大変意欲的であったことがわかる。一方、表 3 満足度については、「どちらともいえない」が 8 名 (35%)、次回出演希望者については「どちらともいえない」を選択したものが、4 名 (17%) 存在している。その理由について、練習方法や役割分担の不徹底、準備期間が短いなどの問題点の記述が見られ、中には、レベルの高い舞台を目指したいという意見も見られた。

②ミュージカルに対する感想より

参加者の感想から、まず良かったと感じた点と問題点（表 6）について、出演者、音楽スタッフ、舞台スタッフに分類し、原文のまま記載する。いずれも問題点の指摘は多数あり、それらの内容はスタッフ部門やキャスト部門ともほぼ共通している。

表 6 参加者の感想記録

	良かったと感じた点	問題点
キャスト	<ul style="list-style-type: none"> みんなでひとつの物を作ることの難しさと楽しさがわかった気がする。 先輩がはやめに練習日程をきめて下さっていたのでバイトの休みとかを出しやすかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 本格的な練習が始まったのが遅かったと思う。 3 年生が実習中の間も、他の人で集まって土台をつくっておいでもらえれば、準備期間も十分確保できて、完成度が上がっていたのではないかと思う。 もっと練習すればよかったと思います。 取り組みは遅かった。 声楽以外、十分な指導者がいなかった。 練習計画が中途半端だった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージカルに全身全霊をかけられなかった。特に歌が… ・舞台が思いの外せまかった。事前に大きさを把握しておいたほうがよかった。 ・通し練習が2・3日前に初めてできたこと。 ・仕上がり目標をもう少し前にもつほうがよい。 ・ナレーションの原稿よみの練習をもっと練習していればよかった。 ・先輩たちが実習にいていたとはいえ、はじめるのがおそすぎたと思う。 ・実質的には1ヶ月前くらいからというのはみじかすぎて、負担が一部にかかりすぎた。 ・集まりがわるいときは解散、とかでなく皆で小道具をつるとかすればよかったと思う。 ・小道具はほとんど4〜5人でつくってしまい、特に中浜さんのアイディアにすごく頼ってしまった。 ・S先輩にものおすごく負担がかかっていたと思う。スタッフの方々にもう少し本番以前のことを手伝っていただけたらよかった。 ・会計、書記等、設置自体をしていなかった役割もあった。 ・ギリギリまでステマネやセッティングチーフなどが誰かわからなかった。 ・歌詞を覚えるのが少し遅かったと思う。ハーモニーももっと村娘どうしの音楽的な練習を設定したかった。 ・本番前に少し声出しをしておけばよかった。 ・私自身、こんなに声で苦しんだのは初めてでした。健康管理には気をつけたいです。 ・Fさんやアイプラザの方が手伝ってくださったのでなんとかになりましたが、裏方仕事の段取りは、あまりみなさん気づいていなかったようで、当日の大道具のセッティング(前日の搬入も)大幅に遅れました。次回は気をつけたいです。 ・教育実習と重なって、10月にあまり練習できなかったのが良かったです。 ・やはりオペラやミュージカルなど、講座の全員がかかわるステージをみんなで作っていく、そういう経験が学生には一生の財産となるので、そういう機会を来年以降もつくっていただきたい。 ・曲ごとに練習時間を設けた方が効率よかったように思う。 ・仕事の負担が不平等であった。 ・もし出来れば、本番のステージで前日までに1度は練習したかったです。 ・忙しくてミュージカルに専念しきれなかったことがあったので、もっと早い時期から計画的にしていきたかった。 ・脚本があると判り易かったです。 ・主要メンバーが今回実習で長い間不在だったので、幾らかはしようがないが、練習の取りかかりが遅かった。 ・また、ミュージカルをやると決まった時に一度集まって原作がどういうものなのかなどの確認や大まかに必要なものや、使うシーンなどを早いうちにある程度全員が認識しておくことより動きやすかったのではないかとと思う。 ・キャスト以外で小道具係などを作れば、キャストへの負担が軽減できてよいが、せめて必要な物を早く決めてしまつて分担する体勢を作れるようにしたい。 ・仕事の受け継ぎがスムーズに行くように学年間の連絡や交流が持てるようになるとういと思う。
<p>音楽スタッフ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回とてもバタバタしてしまったので、遅くとも半年前に取り組み始めた方がよいと思います。 ・出演者、スタッフは毎週集まる日を決めておき、必ず集まって練習や打ち合わせをするとういと思います。 ・役割もきちんとわりふつた方がよいです。 ・曲ごと、係ごとに連絡体制もきちんと作った方がよいと思います。 ・セッティング表は1ヶ月前には出した方がよいです。 ・取り組み時期が遅かったと思います。9月ぐらいから作品を鑑賞したりするべきだと思う。 ・一部の人間だけが道具作りなどをしたりしているのも気になった。たぶん「〜係」という風にそれぞれ役割を作り、その人を中心にみんな巻き込んでやる必要があるのでは。 ・あと練習も、歌の指導は先生にしてもらい、舞台の演出は学生で全てやるべき。学生の主体性をもっと高めなきゃいけないと

教員養成におけるミュージカル活動に関する一考察

	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人、それぞれの能力が発揮されていたと思う。皆、やっぱりやればできるんだ、と感じた。 ・音教全体で、集団としての活動があることは、必要だと再認識した。 	<p>思いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的に道具は全て音教生が作るべきだったなと思いました。 ・取り組み開始は、1年前にできれば…。来年もやるのであれば、4～5月には決定をして余裕をもって取り組みたい。 ・最初に全員集まって、準備の役割分担、スタッフなどの仕事の分担を決めて準備をして、ミュージカルのステージ進行表などの作成の係も必要だと思います。 ・自分自身は体調管理ができなかったのが残念でした…。 ・全てにおいて、取り組み始めるのが遅すぎると思う。 ・その上、効率も悪い練習の仕方、役割分担だった。 ・改善点は挙げればきりが無いと思う。 ・もっと高いレベルの活動ができるようになりたい。 ・取り組み始める時期が遅い。今の時期から計画をたてる必要があると思います。
<p>舞台スタッフ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みんな積極的に練習に参加していたのですごいなあと思った。 ・少しやり過ぎかな？と思う人もいたが、舞台メイクはまぶしい舞台上で顔がひき立ちとても良かったと思う。 ・演技にも力が入っていて良かった。 ・それぞれの役にあったいい衣装だった。 ・小道具がさえていた。 ・意見を言い合いよりよくしようと協力しあったからこそお客さんに楽しんでもらえたんだ ・各個人まかせの衣装がとてもよいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・セッティングの人数が少ないように感じたので、もう少し多くても良いと思う。 ・セッティングの仕事が最後までいろいろ変更になって対応に困った。 ・道具作りをキャストの人がほとんどやっていて、大変そうだった。 ・裏方の役割配分をもう少し細かくした方が良かったと思う。 ・もっとスタッフと出演者の連携をとる必要があったと思う。 ・下見をした上で、舞台上で動くようにし、セッティングの場所も決める必要があると思う。 ・スタッフの役割などはやめに決めて、それに従って、スタッフも進めていかないといけないと思う。 ・他の私用事がある自分一人で作る事が多くなってしまった。もっとみんなのできるようにすればいいなと思った。 ・本番が見られなくて残念だった。 ・材料費の上限があるとやりやすい。

キャスト、音楽スタッフ、舞台スタッフそれぞれの感想を集約すると、以下のようにまとめることができる。

○良かったと感じた点

キャスト

1. 楽しさ、充実感
2. 創り上げる連帯感、仲間意識
3. スタッフへの感謝
4. 役作り、歌やダンスの技術向上
5. よい経験・思い出となった
6. 衣装・メイク・小道具の自主制作
7. 集団の活動の大切さ認識

音楽スタッフ

1. 連帯感・交流
2. 講座全体での取り組みの大切さ

舞台スタッフ

1. 出演者への賞賛
2. 衣装・メイク・小道具への賞賛
3. 協力体制のよさ

○問題点

キャスト

1. 取り組み時期の遅さ

2. 練習期間が短く、仕上がりが遅い：練習計画が曖昧であった

3. 役割分担が曖昧である

音楽スタッフ

1. 取り組み時期の遅さ
2. 学生が主体性にすべてやるべき
3. 練習、役割分担が効率悪い
4. レベルの向上を図りたい

舞台スタッフ

1. 裏方の人数が少ない
2. スタッフの役割分担を詳細に
3. 材料費を明確に

今回のミュージカルの経験で、学生たちは、公演の高揚感や音楽教育講座全体の連帯感を感じた一方、継続に際する課題も確認することができた。特に「取り組む時期」が遅かったために、ミュージカルの仕上がりや衣装・小道具・大道具の制作が大幅に遅れたことは、今後の大きな課題となった。また、「練習計画や役割分担が不明確」なために、仕上がりがレベルに影響を与えたことである。次に、指導側からの課題を述べる。第1に、私自身、ミュージカルの指導が初挑戦だったことで、まず、演出の面では、

ミュージカルはダンスが重要な要素を占めるにもかかわらず、指導が不十分であった点である。ミュージカルのような総合芸術の指導は、体育科や美術科へ指導や制作協力をお願いすることは、必要不可欠であった。一方、新しい発見も見出した。初めての体験であるにも関わらず、学生自らの力で演技やダンスを話し合っ創り上げていったことは大きな収穫であったと感じている。第2に、出演者の歌唱面で課題が残った。というのは、ミュージカルは、会話が多いため、歌うことに対する注意が希薄になりやすい。そのため、無理な発声になり、叫んだり、聞き取れなかったりする場面が多々あった。本来ミュージカルは、オペラと異なり、マイクを通す芸術であるが、ホールの関係で、マイクを使用しないで演じることに對して、音量や言葉の明確さで無理があったと感じている。3点目は、学生の主体性をいかに育て、教員側と学生側の連携をいかに図るかに對してである。今回、演目決定から練習日程、舞台制作から照明、衣装、メイクにいたるまで、教員主導で行うことによって、かなりの負担があり、制作がスムーズにいかない時期もあった。これまで行ってきた教師手動のオペラ活動の実施方法では、学生の育成面でも問題点を感じている。今後は、学生の

役割分担の細目をはっきりさせ、可能なかぎり活動を任せる必要があるのではないかと。4点目は、今後の活動に際して、音楽教育講座の定期演奏会の位置づけ、それにおけるミュージカル活動等の位置づけの曖昧な点である。所属学生や各教員の定期演奏会や講座行事に対する認識はさまざまであり、講座全体の取り組みとして充実した活動を成立させるためには、意識の統一が必要であろう。学生たちの手で自主制作される場所が増えてきていることに對して、22年間拓殖大学北海道短期大学保育科で創作ミュージカル活動を実践している土門は、公演のクオリティの維持と学生の成長を願う教員と学生の信頼関係の重要性を述べている⁵⁾。これについては、19年度ミュージカル上演後、再度検討したいと考えている。

3. 観客の感想記録

本講座では、演奏会には観客のアンケートを実施している。「項目4. 本日の演奏会についてのご意見・ご感想をお聞かせください。」よりミュージカル関係のみ抜粋したものを年代別に原文で記載した(観客数217名中107名分回収)。

表7 観客の感想記録

10代	<ul style="list-style-type: none"> ・すごく素敵でした。ミュージカル感動しました。(19歳・大学生・女) ・どの役の人もがんばっていた。(14歳・学生・男) ・出し物がよく知っているものだったので、楽しく拝見しました。これからがんばってくださいね。(17歳・学生・男) ・演技においてもとても楽しめました。次回もとても楽しみにしています。(15歳・学生・女) ・みなさんの声ははっきり言っていました。よかったです。(7歳・小学生・女) ・ミュージカルはあまり見たことがなかったので、楽しかったです。(19歳・学生・女) ・ミュージカルが面白かったです。(19歳・学生・女) ・美女と野獣は好きなストーリーなので見ていて楽しかったです。ミュージカル大変だったと思いますが、お疲れさまです!(19歳・学生・女) ・ミュージカルが特に素晴らしかったです。来年もまた来たいと思いました。(19歳・学生・女) ・ガストンがはまっていた。コーラスがよかったです。(19歳・学生・男)
20代	<ul style="list-style-type: none"> ・初の試みということだが、面白かった。(21歳・大学生・男) ・すごい楽しかったです。ホント、感情移入してしまって、野獣が打たれたときのシーン、涙が出ました。すごく心がきれいになった気がしました。ミュージカルがこんな素敵なものとは知りませんでした。(21歳・大学生・女) ・That's right! がかわいかったです。なかなか面白かったと思います。あとルミエール最高!(21歳・大学生・男) ・ミュージカルのすばらしさを改めて実感した。(20歳・学生・男) ・ミュージカル感動しました。すごくがんばったんだなあと感じました。衣装や踊りがよかったです。(23歳・女) ・とてもよかったです。楽しくていい時間が過ごせました。(21歳・学生・女) ・とても感動しました!見入ってしまい、ラストは泣きそうになりました!(20歳・大学生・女) ・音楽で交際されているミュージカルはとても楽しく見せてもらいました。たくさん練習が必要でとても大変だったのではないかと思います。(22歳・大学生・男) ・美女と野獣は素晴らしかったです。(22歳・大学生・男) ・ガストンの声量がすごい。久しぶりにミュージカルを見たけど楽しませてもらいました。舞台美術・照明素敵でした。(21歳・大学生・男) ・歌が上手!ガストンが素敵でした。来てよかった。最後も感動的でした。(21歳・学生・女) ・感動しました。楽教でこんなに素晴らしいことができるのが本当にすごいなと思った。(20歳・大学生・女) ・ミュージカルは場面に合った音楽なので、とてもよかったです。(22歳・学生・男) ・ミュージカル楽しかったです。鳥肌立ちました。(24歳・学生・女) ・ミュージカルたいへんだったと思います。伴奏、背景、小道具、大道具そして役者が連携して始めて舞台となるのですね。(23歳・学生・男)

教員養成におけるミュージカル活動に関する一考察

	<ul style="list-style-type: none"> ・すごくよかった。野獣がすばらしかったです。(22歳・学生・男) ・ミュージカルは初の試みということパンフレットに書いていましたが、本当にとても良かったです皆さんは声楽はしていないはずなのに、とても上手くて相当な練習をつんできたのだという事がよく伝わってきました。本当に久々に感動を貰いました。ありがとうございました。(23歳・学生・男) ・ガストンが面白かったですね。もう少しホールが響いたらなと思うと残念です。(21歳・学生・男) ・ミュージカルほんとに面白かった。感動した。もっと響いてもっと大きなホールで見たいと思った。本当に楽しかった。(21歳・学生・女) ・ミュージカルも曲がずっとあり、とても見やすく、聴きやすく感じました。(21歳・学生・男) ・熱演お疲れ様でした。衣装・ダンス・コーラス素敵でした。ホールの音響がもうちょっと良かったらと思いましたが、負けないくらいの演奏でした。(20歳・学生・女) ・ミュージカルがすごく良かったです！歌も音楽も舞台の演出も良かったです。またやってほしいです。(21歳・学生・女) ・ミュージカルとても楽しかったです。段取りもスムーズで、とても気持ちよく見られました(21歳・学生・女) ・美女と野獣の途中からしか観ることができず、大変残念でしたが、私もまた歌いたくなりました。楽しかったです。(23歳・営業事務・女) ・ミュージカルは演じている人の表情が明るくて楽しかったです。(28歳・女) ・ミュージカルがとても楽しかった。もう少し大きなホールで演奏会をされてはいかがですか。客席がせまく感じました。(女) ・踊りがすごかったです。踊りながら歌うのはとても大変なのに大変そうでなく素晴らしかったです。衣装チェンジは効果的でした。ほとんど一人で歌われていておもしろかったです。(20歳・学生・女) ・ミュージカルとても面白く、とても感動しました。涙が出そうでした。いいものを見られて嬉しかったです。(20歳・学生・女) ・ソリストは緊張するのに、みんな声が出ていて良かった。歌詞も聞き取りやすかったです。ダンスや演技もこつていて良かったです。(20歳・学生・男) ・細かい固陋具や演出もすごくこつていて、とても楽しんで見られました衣装もいろいろと工夫しており、すごかったです。(20歳・学生・女) ・ミュージカルはガストンを褒め称える人の歌とお掃除する歌と男児が野獣退治に行く歌が良かったです。魔法で化けさせられた人々の衣装がかわいい。ポット夫人の優しさが特ににじみ出ていました。ティーカップもやんちゃな感じが伝わってきました。ポット夫人のソロきれいでした。とても楽しかったです。(20歳・学生・女) ・ミュージカルも本当によかったです。ここまで完成させるのはきっと大変なことだったと思います。いい時間をありがとうございました。ポット夫人よかったです。(22歳・学生・女) ・すごくよかったです。プロっぽかったです。(20歳・学生・女) ・今回ミュージカル初とのことですが、素晴らしかったです！！歌もダンスも楽しそうでした。体も自然とリズムきざんでいましたポット夫人ラブです。それぞれのキャラクターが出ていて、みんなかわいかったです。(21歳・専門学生・女) ・美女と野獣のミュージカルが楽しかったです。歌と楽器のバランスが良いのもっとよかったです。(23歳・会社員・女) ・ミュージカル、ソロのところが結構楽器に消されていたのが残念。(23歳・学生・男) ・ガストン役の子は上手だった。(21歳・学生・女) ・とても面白いステージでした。(24歳・学生・男) ・とても素敵な演奏でした。弦が入るととても本格的になりますね。もちろん、ほかの3人もブラボー出巢。キャストの皆さん、歌あり、ダンスありの本格的なステージ、とても楽しかったです。特に歌っていない人、主役でない人の演技までとても細かく、感心しました。本当にミュージカルの公演を見ているようでした(ハイライトではなく、これだけでも十分という意味で)スタッフの皆さん、裏方あつての舞台です。お疲れさまでした。これからも皆さんの活躍を楽しみにしています。(23歳・女) ・すごく良かったです！エンターテイメント性がすごい！皆さん演技もダンスも歌も上手で息もぴったりで感動しました！Tさんの声量と演技力にびっくりです。男装の女声もかっこよかったです。とにかく本当に感動しました。(21歳・学生・女) ・ミュージカルは皆演技が上手で楽しかったです。ガストンの名演技が素敵でした。伴奏のかたがたも上手で物語にとっても合っていて、良かったです。(22歳・学生・女) ・美女と野獣すごくおもしろかった。来年も見に来たいと思いました。(20歳・学生・男) ・楽しいミュージカルに満足です。(21歳・学生・女) ・劇が楽しかった。皆楽しそうで、こっちまでウキウキした。時計役の人がサイコーでした。(21歳・学生・女) ・マイクの使い方を工夫しないと歌があまり聴こえない。ベルがかわいかった。ガストンが最高でした。また来たいと思った。(21歳・学生・女) ・「美女と野獣」は衣装がかわいかったです。楽しかったです。(21歳・学生・女)
30代	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージカルがとても楽しかったです。(36歳・事務・女) ・ミュージカルとてもよかったです。みなさんの表情が素敵でした。また来年も期待しています。(31歳・OL・女)
40台	<ul style="list-style-type: none"> ・特にミュージカルとても素敵でした。ぜひまた演じてください。娘たちと聞きに参りたいと思います。(47歳・主婦・女) ・すてきなミュージカルでした。ルーフ役がとてもよかったです。(47歳・公務員・男) ・素晴らしかったです。ミュージカルは、劇団四季のようでしたよ。(48歳・主婦・女) ・ミュージカルよかったです。(46歳・公務員・女) ・皆の力を合わせて素晴らしいステージ・舞台でした。声もとても良くございました。ナレーションもう少しだったかな。でも、よかったです。(45歳・パート・女) ・ミュージカルってすごく難しいと思います。でも演奏も含めてみんなすごく努力していたと思います。ただ言葉がわかりづらい部分が多かったのが少し気になりました。一番伝えるべき部分だと思います。伴奏との音量のバランスをもっと考えてみては。(22歳・学生・男) ・ミュージカルとてもかわいらしくて、それぞれの歌声が魅力的でした。(43歳・印刷・女) ・ピーストの声が良かったです。皆様元気欲楽しんでされていて楽しく拝見できました。(49歳・女)
50代以上	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで何もかも作り上げ、それを形にし、大変なエネルギーがすべて実っていました。(56歳・主婦・女) ・ミュージカル楽しかったです。(57歳・主婦・女) ・ミュージカル楽しかった。楽器の音が少々大きく、ソロの時、声が聞こえにくかった。(60歳・女) ・皆が楽しそうなのがよい。コーラスがよかったです。(52歳・講師・男)

<p>・野獣のキャストが最高！ミュージカルって楽しいね。ヴァイオリンいい音、オーボエ、フルートもいい感じ。(51歳・公務員・女)</p> <p>・限られた空間と照明をフルに活かした名演出！十分に楽しませてもらいました。男声、女声ともよかった（特にコーラス、欲を言えば、女声の音量がもう少しあれば・・・という程度）。このような経験は、児童・生徒に「学習発表会」などをやらせるときの貴重なものとなるでしょう！Bravissimi! (76歳・男)</p>

回収した107枚分中72人(6割強)の観客がミュージカルの感想を記述していることから、ミュージカル公演のアピール度が大きかったことがわかる。感想の大半は、ミュージカルへの賞賛であったが、集約すると以下のようにまとめることができる。1. 個々の出演者に対する高評, 2. ミュージカルを創り上げた学生への高評, 3. ステージ全体に対する高評, 4. 演技, 踊り, 歌唱への高評が多かった。一方, 楽器と声のアンバランス, 言葉の不明瞭さの指摘もあったことから(表7下線部), リハーサルで楽器音量と声量とのバランスに十分な配慮が必要であることが改めて確認できた。

IV. おわりに

岡山大学でオペラハイライト上演が平成2年に始まって以来, 第10回目の公演となった「美女と野獣」は高評に終わった。平成19年12月22日, 第55回音楽教育講座定期演奏会では, 第11回公演となるミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」ハイライトを上演する予定である。これまでの活動を振り返ると, オペラとミュージカルの違いはあるが, 学生が協力して創り上げる過程の中で見られる学生間の協力, 創意工夫, 技術や意欲の向上を見ると, その目的はなんら変わらないと言えよう。「美女と野獣」の公演に際して, これまでの教員が主体となって, 制作から演出, 裏方まで携わっていた形態から, 学生が主となり作り上げようという形になりつつある。他大学の例を挙げると, 山形大学では, 平成11年度以降の「オペラ演習」の授業では, 学生が指揮・演習を担当し, 教員は総合的指導を行っている⁶⁾。ただし, これは生涯教育課程のカリキュラムであり, 学校教育課程にはそのまま移行しにくい。総合学習のあり方を踏まえて, ミュージカル活動を捉えると, 学生の主体的な活動姿勢, コーディネート力の育成は, 将来の教員にとって大きな力となろう。しかし, 学校教育課程の学生にとっては, オペラ・ミュージカル活動の経験がほとんどなく, ハイライトの曲目選出, 楽器編成, 編曲, 移調, 練習計画の設定, 出演者募集等について準備段階での戸惑いが多い。音楽教育講座では, 18年度公演の問題点であった「取り組みの時期の遅さ」を解決する

ため, 開始時期を1年前に設定し, 学生運営委員会総会で学生の総意を確認し, 全体で取り組む体制にあった。しかし, 公演の5ヶ月前を切っても, 細目の進展が起動に乗れないまま, 時間のみが経過し, 最終的にタイムリミットの状態で, 教員が主体となって公演を補助する結果となった。即ち, 学生主体の公演を企画する場合, カリキュラムの中にこのような活動に関する授業科目を入れる必要があるのではないか。教員養成大学におけるミュージカル等の活動を授業科目に取り入れる場合は, 総合学習との関わりや横断的な学習を視野に入れた上で, 学生が経験を通して, 自己の能力を向上させ, 将来学校教育に生かせるための経験としての位置づけも必要であろう。学生の主体性をどこで発揮させるかについては, 個人の音楽的な資質, それまでの音楽経験や仲間との連帯意識濃さなどを総合的に把握した上で, さまざまな決定がなされなければならない。さらに, これまでのような既存の作品のハイライトではなく, 創作オペラやミュージカルにも挑戦する時期が来ているのではないかと考えている。古市は, ミュージカルの作成から発表までを「総合教育」の目指す以下のような教育内容と関連付けている⁷⁾。

1. 体験(観察・実験・発表・討論など)する
2. 基礎能力を高める。
3. 創造的な態度を育成する。
4. 学生側の興味・関心から発展させる
5. 生き方を考え学ぶ

学生が主体的かかわり, さまざまな分野を横断的にまとめあげ, 公演発表まで持っていくためには, 各分野の基礎的知識と実践力を養う必要があり, さらに自らが興味を持って創造していく姿勢が不可欠である。これが, 今回の実践における課題の克服につながるであろう。さらに, 教員養成の音楽科として, 音楽的なレベルや公演内容のレベルアップも図らなければならない。その他, キャスト等の募集をしても集まらない, 出演者が揃って練習を行う時間を確保するのが難しいなどの問題点も年々大きくなっている。今後, ミュージカルのような活動を継続する上で, 学生を育成するためには, 総合演習的なカリキュラムの検討が急がれる。

引用・参考文献

1) 旬の「総合エンタメ」, 朝日新聞朝刊 3月17日号, 2007.

2) オペラハイライト一覧

	演奏会名	日時	演目	場所	出演
1	第20回学外研究発表会	平 2.12.12	歌劇「フィガロの結婚」より抜粋	岡山県総合文化センター	6
2	第21回学外研究発表会	平 3.12.11	歌劇「コシ・ファン・トゥッテ」より抜粋	岡山県総合文化センター	9
3	第22回学外研究発表会	平 4.12.13	歌劇「魔笛」より抜粋	西川アイブラザ	18
4	第24回学外研究発表会	平 6.12.7	歌劇「あまんじゃくとうりこひめ」全曲	西川アイブラザ	8
5	第25回学外研究発表会	平 7.12.12	歌劇「フィガロの結婚」より抜粋	西川アイブラザ	9
6	第26回学外研究発表会	平 8.12.11	歌劇「魔笛」より抜粋	西川アイブラザ	14
7	第27回学外研究発表会	平 9.12.10	歌劇「コシ・ファン・トゥッテ」より抜粋	西川アイブラザ	9
8	第30回学外研究発表会	平 12.12.11	歌劇「あまんじゃくとうりこひめ」全曲	西川アイブラザ	8
9	第34回学外研究発表会	平 16.12.10	歌劇「魔笛」より抜粋	西川アイブラザ	15
10	第54回定期演奏会	平 18.12.12	ミュージカル「美女と野獣」より抜粋	西川アイブラザ	20
11	第55回定期演奏会	平 19.12.22	ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」より抜粋を予定	西川アイブラザ	21

3) 虫明眞砂子, 教員養成におけるオペラ活動の教育的意義, 岡山大学教育学部研究収録第109号, 1998. を参照されたい。

4) 平成16年まで, 現在行われているユニ・コンサートは学内研究発表会として開催されていた。また, 定期演奏会は9月に吹奏楽のみで行われていたが, 全員参加の形を目指して, それまで12月に開催されていた学外演奏発表会と定期演奏会が統合し, 現在の新しい形の定期演奏会となって

いる。

5) 土門裕之・山田克己, 創作ミュージカル活動の実践, 音楽教育実践ジャーナル vol3 no.2, p.69, 2006.

6) 藤野祐一, オペラ演習における教育成果に関する一考察, 山形大学教育実践研究 11, p.46, 2002.

7) 古市久子, 教師養成のための総合学習の教材研究, 大阪教育大学教育研究所報, 大阪教育大学教育研究所, p.52, 1999.

Title: Consideration of Musical Activities for Teacher Training

Masako MUSHIAKI (Faculty of Education Okayama University)

Keywords: Musical, Production, Independence, General Laboratory, Curriculum
